

令和2年度 議会報告会を中止 新型コロナウイルスの収束見通せず

「議会報告会運営調査特別委員会」は、次のように調査結果を議長に報告しました。

主な内容

令和元年度は、「議会のあり方調査特別委員会」を始め各特別委員会の活動をテーマに議会報告会を開催した。参加者

との活発な意見交換が行われた。

令和2年度は、開催予定の10月になっても新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず市内でも感染者が発生したために、議会報告会を中止

とした。今後の議会報告会は、

地区別の開催に加え、若い世代の参加率の向上を目指しテーマや対象者を

より絞った各種団体との意見交換会も必要と考える。

汚染稲わら・指定廃 今後も調査が必要

「指定廃棄物の最終処分等に関する調査特別委員会」は、次のように調査結果を議長に報告しました。

1 8000ベクレル以下の汚染廃棄物処理について

市は、平成28年5月から汚染牧草の減容化の実証実験で製造した堆肥を施した土壌の分析などの環境調査を行ってきた結果、汚染牧草は堆肥化による処理を行い、市営牧場や民間牧草地へ土壌還元し、安全に有効活用を図っていく。また、堆肥化処理施設の建設候補地を「市営上田山牧野」とする市の方針が示されたが、周辺住民から根強い反対があり、候補地の決定に至っていない。

特別委員会は、今後も継続して調査が必要である。

2 指定廃棄物の最終処分などについて

特別委員会は、8000ベクレルを超える汚染稲わらなどの指定廃棄物は、国および東京電力が責任を持って対処すべきと訴えてきた。しかし、議論は膠着状態となっており、当初、2年間の約束であったが、市内5か所で県が保管する状態が続き、8年が経過した。

令和2年7月15日、現地調査を実施し、8月11日、「汚染稲わら保管施設の排水対策を求める要望書」を県知事宛てに提出した。11月20日、県の排水対策が完了したことを確認した。

特別委員会は、今後も継続して調査が必要である。

意見書

75歳以上の窓口負担

2割化中止を求める

2月定例議会では、1件の議員発議により、意見書が提出されました。審議の結果、賛成多数で可決し、意見書に関係機関に提出しました。(要約して掲載)

昨年12月の与党合意を踏まえ、政府は年収200万円以上の高齢者を対象に75歳以上の高齢者の医療費窓口負担を現在の1割から2割にするとしている。令和3年開会の国会に関連法案が提出されている。

実施は令和4年10月以降の見通しとしている。

窓口負担が2倍になり、高齢者の受診抑制を促す危険のある75歳以上の高齢者窓口負担の2割化については中止することを強く求める。

討論

反対 三浦 善浩 議員

後期高齢者支援金の急増が見込まれる中、若い世代は貯蓄も少なく、教育費などほかの支出の負担も大きい。負担能力のある人に可能な範囲で負担してもらい、若い世代の保険料負担の上昇を少しでも減らしていくことこそ、今、最も重要な課題である。

賛成 小野 久一 議員

75歳以上の高齢者は最も病気にかかりやすく、治療にも時間がかかる。原則1割負担の下でも年間約8万円の窓口負担をしている。年収に対する割合では、若い世代の2〜6倍の負担をしている。年金生活者・高齢者いじめの制度改定は、やめるべきである。

賛否一覧表

議員氏名	議決結果	採 決 結 果																								
		佐藤 庄喜	小野 久一	澤邊 幸浩	佐藤 千昭	佐藤 範男	鹿野 芳幸	高橋 勝男	高橋 義雄	五十嵐 勇	石川 正運	高橋 涉	三塚 東	沼倉 猛	高橋 将	佐藤 悟	三浦 善浩	菅原 勇喜	佐藤 文男	相馬 勝義	濁沼 一孝	佐藤 勇	佐々木嘉郎	阿部 貞光	佐藤 久義	
発議第1号	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	一

※ 「賛」⇒賛成した議員、「反」⇒反対した議員、「一」⇒議長のため表決に加わらない

医療・介護従事者に

感謝と支援を

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大により、私たちの日常生活は一変してしまいました。会合やイベントは延期や中止が相次ぎ、旅行や飲食の機会も激減しました。3密回避の自粛生活は実に不自由です。

医療や介護の現場では、ウイルス対策で相応な神経を使われていると聞きます。私たち市民の命を守ってくださっている皆さんに本当に感謝です。なのに、医療従事者に対する心ない誹謗中傷があると聞きます。諸事情で離職せざるを得ない方がいるとも聞きます。今、医療・介護従事者の皆さんに対する支援が必要ではないでしょうか。本市の高齢化が一層進む中で、医療・介護職を目指すとする使命感を持った方々の意思をいっそう大切にするために。



たかはし よしのり
高橋 義典さん
(驚沢)

私もひとこと



わたなべ じゅんこ
渡邊 淳子さん
(金成)

安心して暮らせる

栗原に

高齢化や少子化が進んでいる現在、高齢者の1人暮らしや老老介護を身近に感じ、子供たちの元気な声や遊びまわる姿を見かけなくなり、ご近所付き合いも減り、何かさみしい世の中になったように思うのは私だけでしょうか。

その反面、新規事業を起こして頑張っている若い方々もいる事につれしい限りです。子どもから若者、高齢者、そして障害を持つても安心して暮らせる栗原。これからを担う世代に耳を傾け、高齢者や障害者に目を向けていただきたいです。今後一層、地域全体に活気があり、福祉の充実した栗原、魅力のある栗原を期待します。

あとがき

近年に無かった大雪も、跡形もなく解け、もう桜の便りも聞かれ、着実に季節が移り変わっています。

コロナ禍で市民との意見交換の場「議会報告会」はコロナウイルス感染症が収束しない中、中止にせざるを得ませんでした。

一方、「くりはら市議会だより」は、議会の様子を分かりやすく伝えるため、編集委員一丸となり発行に努力をしてきました。現在の編集委員での発行は最後になります。ご愛読ありがとうございました。

発行責任者

佐藤 文男

広報編集調査特別委員会

- | | |
|------|--------|
| 議長 | 佐藤 久義 |
| 委員長 | 三塚 東 |
| 副委員長 | 高橋 将 |
| 委員 | 澤邊 幸浩 |
| 委員 | 佐藤 範男 |
| 委員 | 五十嵐 勇 |
| 委員 | 石川 正 |
| 委員 | 佐藤 悟 |
| 委員 | 佐藤 文男 |
| 委員 | 佐々木 嘉郎 |

